

ガソリンの貯蔵・取扱いに注意を！

🔥ガソリンの特性

- ・引火点が-40℃以下と低く、極めて引火しやすい。
- ・揮発しやすく、その蒸気は空気より約3から4倍重いため、滞留しやすく、可燃性の蒸気が広範囲に形成されやすい。
- ・電気の不良導体であるため、流動等の際に発生した静電気が蓄積しやすい。

🔥ガソリンの容器

ガソリンに静電気が蓄積しないよう、消防法令に適合した金属製容器で貯蔵・取扱いをする必要があります。



ガソリンの貯蔵に適した容器の例

(金属製容器であることが必要)



ガソリンの貯蔵に適さない容器の例

(樹脂製容器は火災危険が高い)

🔥ガソリン携行缶のユーザーが特に注意すべき重要な事項

- ・ガソリンの噴出に注意すること。
- ・直射日光のあたる場所や高温の場所で保管しないこと。
- ・周囲の安全を確認すること。
- ・フタを開ける前にエンジンを停止すること。
- ・フタを開ける前にエア抜きをすること。

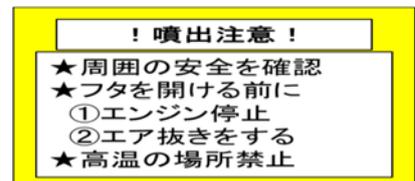
※エア(圧力)の抜き方(例)

《一般的な携行缶》



① エア(圧力)抜きのねじをゆっくりゆるめる。

②③ エア(圧力)が抜けたら、キャップを開けて、ノズルと携行缶を確実に結合する。



現在、販売・流通されている携行缶には上記注意表示シールが貼付されています。